



CSR REPORT

2017 富士通テングループ CSR報告書 [ダイジェスト版]





社名「富士通テン」の「テン」は、最高・至上を意味する「天」のことです。
中国古典の「中庸」に「誠は天の道なり。これを誠にするは人の道なり」という一節があり、
「誠」を企業経営の基本理念として大切にしています。

企業理念

私たちは、「誠」を大切に働きお客様・社会に貢献します。

○お客様第一 品質至上

私たちは、お客様に役立つことを第一に考え、最高の品質で期待の先を行く商品を生み出します。

○社会への責任・貢献

私たちは、社会の一員であることを自覚し、企業活動を通してその責任を果たし、貢献します。

○働きがい

私たちは、一人一人が誇りを持って働き、能力を発揮し、達成の喜びを分かち合う「場」を実現します。



富士通テングループ 企業行動宣言 (CSR方針)

私たち、富士通テンは、製品の提供を通じて人と車のより良い関係づくりに貢献し、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。この目標を実現するため、私たちは、「誠」を大切に、「富士通テン企業理念」に基づくこの「富士通テングループ企業行動宣言」を実践してまいります。

□お客様

お客様第一、最高の品質、期待の先を行く製品・サービス
安全性、品質の向上
個人情報の保護

□従業員

人権尊重
強制労働・児童労働の禁止
働きがいの実現
公正な労働条件、安全な労働環境

□取引先

共存共栄の実現
透明で公正な取引機会、公正な関係

□株主

企業価値の向上

□環境

環境負荷の低減

□社会

適切な情報開示
国際ルール、各地域のルールの順守
公権力との公正な関係
反社会勢力との関係遮断

□社会貢献

豊かな社会・地域づくりへの貢献

※「企業行動宣言」の全文は、「CSR報告書【詳細版】」および当社WEBサイトに掲載しています。

編集方針

富士通テングループは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みとCSRに関する情報をわかりやすく開示し、さまざまなステークホルダーの方々とのコミュニケーションを図ることを目的に、毎年「富士通テングループCSR報告書」を発行しています。

2017年版の「CSR報告書【ダイジェスト版】」(本PDF)は、ページ構成を当社CSR重点課題に沿ったものに改め、2016年度における重要な取り組みやトピックスを中心に、コンパクトにまとめて報告しています。

また、より詳細な情報を網羅的に報告した「CSR報告書【詳細版】」を、当社WEBサイトで公開しています。

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
ISO26000:2010 - 社会的責任に関する手引き
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン(第4版)」

報告期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)の活動を中心に報告しています。ただし、それ以外の期間の内容も一部含まれます。

本報告書の想定読者

お客様、お取引先、従業員、株主、地域社会、行政などのステークホルダーの皆様を読者と想定しています。

報告対象組織

富士通テングループ全体および富士通テングループ各社の活動を報告しています。ただし一部に、特定の範囲あるいは拠点のみを取り上げたデータや事例を含みます。

将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、富士通テングループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これら予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、これらには不確実性が含まれています。

したがって、将来の事業活動の結果や将来に惹起する事象が本冊子に記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがありますが、富士通テングループは、このような事態への責任を負いません。読者の皆様には、以上をご承知いただくようお願い申し上げます。

CONTENTS

企業理念	1
企業行動宣言(CSR方針)	
編集方針	2
トップコミットメント	3
事業のご紹介	
VISION2022:事業ビジョン	5
事業概要	6
富士通テングループのCSR	7
特集:事業を通じた社会への貢献	9
重点課題分野の取り組み	
■ 消費者課題	13
■ 環境	15
■ 人権・労働慣行	17
■ 公正な事業慣行	20
組織統治	21
社会への貢献	22
財務報告/会社概要	23
第三者意見/ご意見への回答	24

人とクルマと社会をつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて、日々挑戦し続けます

富士通テングループのビジョンは、事業活動を通じて『人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に向けて日々挑戦する』ことです。その活動を通じて私たちも持続的に成長したいと考えています。

富士通テン株式会社
代表取締役社長

山中 明

クルマのICT化を通じて付加価値を高め、社会に貢献

社会は現在、IoT、人工知能(AI)、次世代高速通信技術というデジタル革新の時代に突入し、社会経済システムが大きく変革しようとしています。自動車産業においては、「自動運転」「コネクテッドカー」「電動化」といった分野で技術革新が進み大転換期を迎えており、自動車業界だけでなく異業種も巻き込んだ大きな変化を遂げようとしています。

このような社会では、クルマは移動の手段から人を中心としたモビリティの役割へと変わっていきます。このような世界で私たちは、Vehicle-ICTによりカーナビ/ECUの部品サプライヤから、クラウド連携車載情報機器・サービス提供事業のシステムサプライヤへの変革をめざしています。

具体的には、ミリ波レーダーやMAV(360度の周辺監視カメラ)などのセンシング技術、クラウド連携などのつながる技術を活かした商品や、車のプローブデータなどのビッグデータを活用した新しいビジネスモデルも視野に入れ、社会に価値を提供し、貢献したいと考えています。

クルマが変わり、社会が変わり、クルマがネットワーク社会のモビリティになる時代を見据え、当社は、高度運転支援・自動運転技術および電子基盤技術で当社の強みを生かすとともに、Vehicle-ICTでクルマを人のベストパートナーにするべく、快適で安心・安全、環境に優しいモビリティ社会の実現に貢献していくために、挑戦を続けてまいります。

CSR活動の取り組み

事業を通じて社会に貢献することを基本として、私たちは社会の一員であることを自覚し、企業活動を通じてより豊かな社会・地域づくりに取り組んでいます。

2015年9月に持続可能な開発目標(SDGs)が国連総会で採択されるなど、CSRの重要性が世界的に高まっていることを受け、モビリティ社会の中でよりステークホルダーの期待や要請に沿った富士通テンらしい活動を進めていくために優先的に取り組むべき重点課題を昨年8月に特定しました。いくつかの活動をご紹介します。

富士通テングループのCSR重点課題





まず、第一は「公正な事業慣行」です。ステークホルダーや社会・地域から信頼される企業をめざすために、コンプライアンス違反も含めたさまざまなリスクについて、未然防止に向けた取り組みを展開しています。2016年度は、カルテル、輸出管理、情報セキュリティの3つの重点分野について、規程整備、教育、モニタリング体制の整備などを行うとともに、社内インフラ/工場/車載機の情報セキュリティ強化のため、CISO(Chief Information Security Officer)・セキュリティ統制室を設置したほか、設計・技術認証の適正性担保を目的に技術監査室を設置しました。

次に、「労働慣行」です。昨今ではライフスタイルの変化、ダイバーシティの進展、少子高齢化などの社会環境変化や個々人の嗜好や価値観の多様化など、仕事と生活の両方を充実するワークライフバランスの考え方に則った、働き方改革が大切な問題となってきています。当社ではこのような新たなニーズに対応するため、選択型の福利厚生制度「TenWel(テンウェル)」を昨年10月よりスタートしています。「育児」「介護」「健康」「自己啓発」を注力領域に個々人のニーズに合わせ、充実したワークライフに資する制度に見直しました。

最後は、「環境」です。自社が排出するCO₂削減にとどまらず製品開発や部門の本業での取り組み、拠点・事業所の取り組みなどさまざまな活動を実施しています。これらの活動から好事例をグローバルに選出し、環境貢献賞として優秀事例発表会で共有し底上げを図っています。2016年度は、リフローはんだ付け工程の改良を通じたCO₂の低減、ハイブリッド車両に最適な急速充電を可能にした急速充電ECUの開発、海外での森林・マングローブの再生などの生物多様性保全活動など計11件を表彰し、特に優れた6件に事例発表してもらい、活動の活性化につなげています。

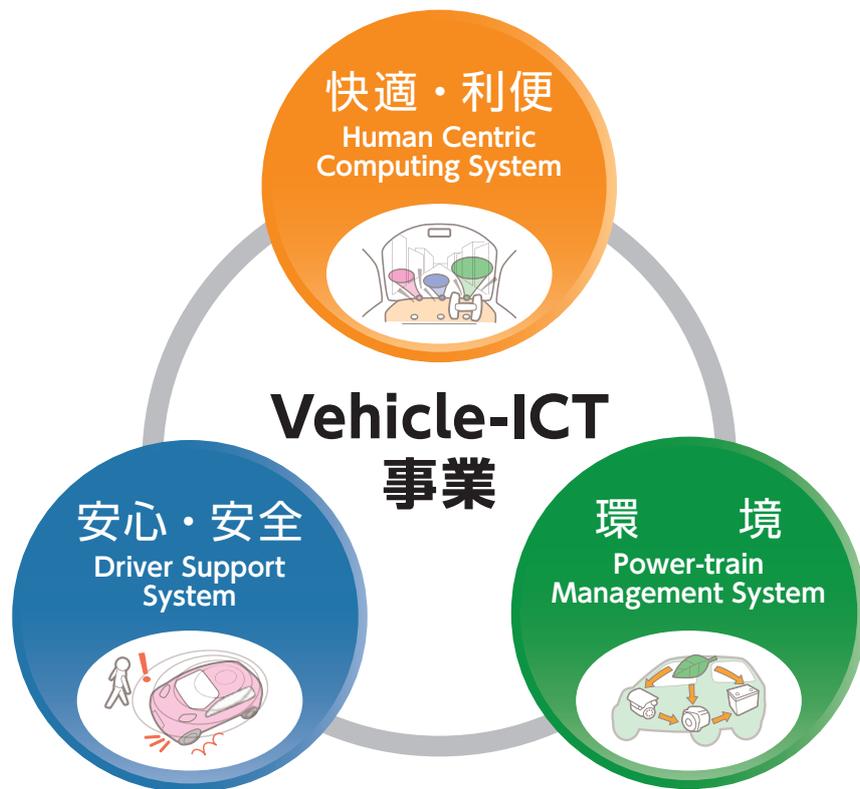
富士通テンは今後も、グループ丸となって重点課題に取り組み、国際社会・地域社会から信頼される企業をめざします。当社のCSR活動の源泉は、社是である『誠は天道なり』であり、私たちは、ステークホルダーの皆様とのより良い関係づくりに努めるとともに、「誠」を中心としたお客様と社会への貢献という企業理念を追求し、持続可能な社会の実現に向けて挑戦し続けます。また、私たちは常にお客様・パートナーとともに成長する企業でありたいと考えています。今後とも一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

人とクルマと社会の間に、富士通テン

富士通テングループは、これまで培ったクルマづくりの技術とICTを活用した独自の「つながるテクノロジー」で人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

事業ビジョン

人とクルマ、社会とクルマをつなぎ、
自由で快適なモビリティ社会の実現に貢献します。



快適・利便

人にやさしい
情報提供システム

安心・安全

社会のネットにクルマを
組込む基盤システム

環境

地球を守る
パワートレイン制御システム

事業領域と製品

ICTによる情報の相互利用、シームレス化に適應し、一人一人に寄り添ったカーライフを実現します

快適・利便



CI事業 (Car Infotainment)

交通状況や駐車場の空き情報、目的地の天気をリアルタイムで情報提供。さらに、ドライバーの気分や健康状態を察し、その日、その人に最適な情報を最適なタイミングでお届けすることをめざしていきます。

カーナビゲーション、ディスプレイオーディオ、CDチューナー



音響システム・アンプ



後席ディスプレイ



ラジオアンテナアンプ



独自のセンシング技術と周辺監視技術により、クルマの安心・安全を社会全体に広げていきます

安心・安全



V-ICT事業 (Vehicle ICT)

クルマと歩行者や街、道路情報をつなぐ安全運転支援システムの実現をめざし、事故を未然に防ぐ、万が一のダメージを最小限にするなど、さまざまな角度から安全運転をサポートする製品を生み出していきます。

マルチアングルビジョン™



ミリ波レーダー



緊急通報システム



セキュリティシステム



クラウド型タクシー配車システム



クラウド連携ドライブレコーダー



燃費向上・CO₂排出量削減など移動エネルギーの最適化を実現し地球環境に貢献していきます

環境



AE事業 (Automotive Electronics)

燃費の向上や排出ガスの低減を実現させるシステムの開発に積極的に取り組んでいきます。多様に進化する動力源の効率化や制御する製品により、クルマはもちろん、街、社会全体のエネルギー利用を最適化していきます。

ハイブリッド専用 ECU



電動パワー
ステアリング ECU



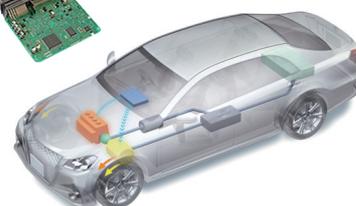
エンジン制御 ECU



エアバッグ ECU



バッテリー
マネジメントシステム



富士通テングループのCSR

富士通テングループは、「『誠』の精神こそがCSR活動の源泉であり、CSR活動は企業理念に基づく事業活動そのもの」との考えのもと、さまざまな活動を通じてステークホルダーの皆様から信頼される企業をめざしています。

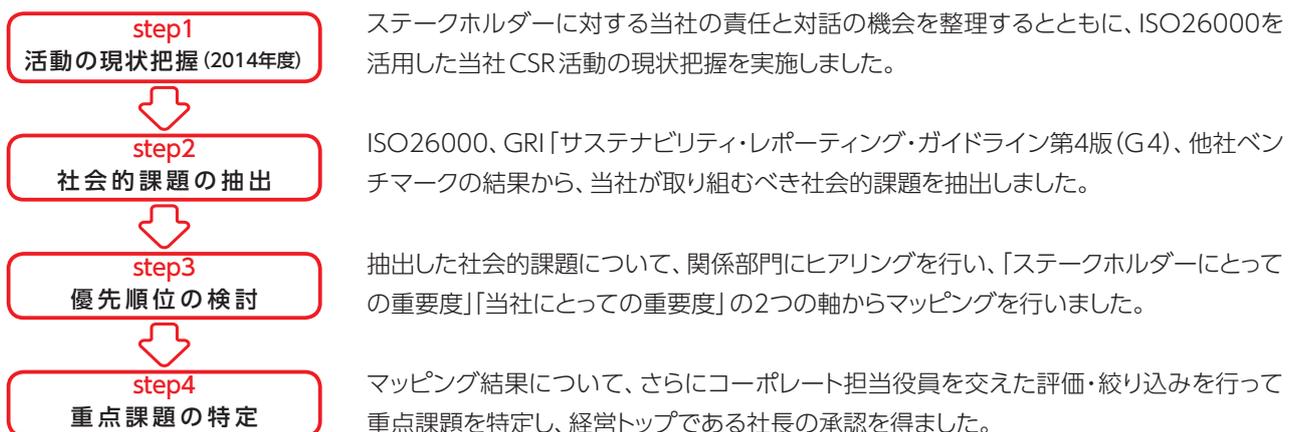
CSR重点課題の特定

2016年には、よりステークホルダーの期待や要請に沿った富士通らしい活動を進めていくため、優先的に取り組むべき重点課題（マテリアリティ）を特定しました。

富士通テングループのCSR重点課題



重点課題特定のプロセス



2016年度以降の取り組み

富士通テングループとしての一体的なCSR活動をどのように進めていくべきか、方向性を議論する場として2017年1月からコーポレート部門の関係者が集まり「CSR座談会」を定期的で開催しています。また2017年7月にはコーポレート担当役員を交えた「コーポレートCSR会議」を開催し、各機能部門の2016年度の活動をレビューするとともに、2017年度の活動の方向性について議論しました。

今後は、座談会やコーポレートCSR会議での議論を通じて、CSR方針/社内体制の見直し・整備を進めるとともに、具体的な取り組み項目や目標、活動のマイルストーンを明確にしていきます。

重点課題と2016年度の主な取り組み・成果

重点課題		2016年度の主な取り組み・成果	関連ページ
消費者課題	お客様データの保護	●「個人情報保護方針」に基づく規定の整備・従業員への周知徹底(継続)	P.14
	お客様満足度の向上	●品質マネジメントシステムを新規格の「IATF16949」に準じたシステムに改定 ●品質に対する従業員の意識向上を狙いとした特別展示会を合計4回実施 ●4,660人の従業員がQCサークル活動(小集団活動)を実施(継続)	P.13-14
環境	製品による環境への貢献	●小型軽量化と画面の大型化・視認性向上を達成した薄型ディスプレイオーディオを開発 ●「機能そのものが環境負荷低減につながる製品(環境貢献製品)」をグリーン製品の社内審査基準に追加 ●「ISO14001:2015」のグローバル統合認証を業界最速で取得	P.15-16
		●新入社員の入社時教育や昇級時の階層別研修において、人権関連のプログラムを実施(継続) ●リーダー職を対象にパワーハラスメントに関する研修を実施	P.17
労働慣行	人権の尊重 (デュエリジェンス)	●企業活動におけるダイバーシティの重要性、特に女性の活用の重要性について、全社員へ向けた社長メッセージを発信 ●女性の活躍を推進する「えるぼし」企業の認定(3段階目)を取得	P.18-19
	人材の多様性 (ダイバーシティ)	●仕事と家庭の両立への不安を解消し、将来のキャリアを考えるきっかけを提供するため女性の若手社員と先輩社員との座談会を開催	P.18-19
	ワークライフバランス	●計画的な業務遂行を推進し、働き方を見直すきっかけとするため、すべての従業員が3日間の計画休暇を取得する取り組みを実施	P.18-19
	従業員の健康推進	●健康啓発セミナーの対象を30歳までの若年層に見直し、食事・運動・ストレスのセルフケアなどを指導 ●受動喫煙防止の観点から、喫煙所の集約・屋外移設、禁煙セミナーなどの啓発活動を実施	P.19
公正な事業慣行	公正・公平な取引	●協力会「天栄会」の定期交流会にて「企業活動におけるコンプライアンス」をテーマに講演会を開催。お取引先など約250名が参加	P.20

ステークホルダーとの対話の機会

ステークホルダー	対話の機会・ツール	ステークホルダー	対話の機会・ツール
お客様	お客様訪問による情報交換 お客様相談窓口(電話・Eメール) ユーザーアンケートはがき 展示会(モーターショー/技術展示会)	株主	株主総会 各種説明会 事業報告書・アニュアルレポート
従業員	職場力向上アンケート イントラ社内報 上司面談 相談窓口(人権/キャリア/こころの健康) 定例労働協議会 コンプライアンスライン	環境	CSR報告書 近隣企業との環境交流会 環境展示会への出展 地域環境保全活動への参加
取引先	仕入先総会/生産動向説明会 天栄会(総会/各分科会) 自主点検調査(品質/環境/CSR) コンプライアンスライン	社会(地域)	定期的な対話会・情報交換会 地域行事への参加・協賛 工場見学・工場招待イベント 地域防災福祉コミュニティへの参画 地域社会への貢献活動

特集：事業を通じた社会への貢献

富士通テングループは、豊かなモビリティ社会の実現に向けて、「安全・安心」「快適・利便」「環境」に関わる製品・サービスをつくり出すことで、社会的課題を解決するとともに、新たな価値をお届けしています。

企業のお客様向け製品の提供

安心・安全

社有車による交通事故の低減に貢献

安全運転管理テレマティクスサービス

富士通テンは、2016年6月から、運行管理者のいない営業車やサービス車などを保有する企業において、専門知識をもった管理者なしに、より簡単でリーズナブルに安全運転管理が行える「安全運転管理テレマティクスサービス」の提供をスタートさせました。

交通事故は経済的な損失だけでなく、社会的な信用喪失など事業機会の損失にもつながる問題であり、その防止は企業自身にとっても、社会全体にとっても大きな課題となっています。近年、ISO39001*1が発行され、タクシーやバス、トラックなど運送事業者だけでなく、さまざまな企業で広く安全運転管理への意識が高まってきています。

当社は、2005年からドライブレコーダーをタクシーやバス、トラック事業者を提供し、分析ツールの提供などにより、安全運転管理を支援してきました。一方、業務用のタクシー、バス、トラックの総台数が200～300万台であるのに対して、一般企業の営業車・サービス車などの業務用車両は約1,500万台以上にも上り、それらの1万台あたりの事故率は家用車に対して約4.5倍とも言われています。

そこで、「社用車を安全に運行する必要性は、タクシー会社などと変わりはないはず」との想いから、当社は、業務用ドライブレコーダー「G500」シリーズとしてタクシー会社・バス会社・運送会社などに向けて提供してきたシステムを、一般企業向けに再構築しました。

「安全運転管理テレマティクスサービス」は、通信型ドライブレコーダー「G500Lite」とクラウドが連携し、急ブレーキや急ハンドル、車両のふらつきや前方車両との距離といった運転状況をクラウドに自動収集。さらに、簡単な操作で、個人の運転特性を解析して運転診断書や改善点のコメントを自動で作成する、過去の運転データをもとに改善項目と目標値の推奨値を自動で設定するといった機能により、社用車の安全運転の計画から教育までを強力にサポートします。

*1 ISO39001：道路交通安全マネジメントシステムに関する国際規格

一般的なドライブレコーダーとの違い



交通事故を起こさせないための3つのソリューション

- | Solution 1 | Solution 2 | Solution 3 |
|--|---|--|
| 危険な運転を高精度で感知 | クラウドによって危険な場所を共有 | 効率的かつ簡単に運転指導を実現 |
| ドライバーのふらつきや車間距離もデータ取得できるため管理者は高精度な挙動把握が可能。 | ヒヤリハットマップの共有によりドライバーは危険な場所を把握し安全運転を行うことができます。 | ドライバー個別のデータを取得でき、指導教材も簡単に作成できるため効率的な学習を実現。 |

個人のお客様向け製品の提供

安心・安全 快適・利便

ドライブレコーダーをより身近に、使いやすく ドライブレコーダーを内蔵したナビ、録ナビ

万が一の事故が起こった場合に備え、事故前後の映像を記録することで「安心」を提供するドライブレコーダー。交通事故が大きな社会問題となっている中、カーナビと一緒にドライブレコーダーを購入する個人のお客様が次第に増える傾向にあります。

このような状況を受け、2016年12月、当社はドライブレコーダーを内蔵したカーナビ「録ナビ」を開発・発売いたしました。



ドライブレコーダーとカーナビの融合を図るだけでなく、バックアイカメラでの後方記録や、カーナビ画面上で記録映像の確認が可能となるなど、当製品ならではの機能を搭載しています。



録ナビのメリット

[1] 車両後方への不安を軽減

事故が起きるのは車両の前方とは限らず、信号待ち、渋滞中などに後方から追突される可能性もあります。録ナビは、前方はもちろん、バックアイカメラを活用して後方も同時に記録することができ、車両後方への不安を軽減します。

※別途バックアイカメラが必要となります。



[2] カーナビ画面ですぐに映像を確認

記録した映像は、大きく、見やすいカーナビの画面でご覧いただけます。事故が起こった際も、すぐに映像を確認でき、事故への対処をサポートします。また、記録した映像をWi-Fiでスマートフォンに転送できます。



リストから選択

画像から選択

地図から選択

[3] スッキリと取り付け可能

ドライブレコーダーの記録部がカーナビ側に内蔵されているので、カメラだけを取り付ければ設置が完了。フロントガラスやダッシュボードが機器で占有されず、前方の視界が機器で妨げられることなく、スッキリと取り付けられます。

「安全」をより確実なものとするために

当社ならではの車載品質を達成した、内蔵ドライブレコーダー

ドライブレコーダーは、事故時などに大きな衝撃を受けても「壊れることなく、その瞬間をしっかりと記録し、データとして残せる」という当たり前のことがとても大切です。一方、クルマの環境は苛酷であり、「温度変化」「振動耐久」、さらに「視界を妨げない取り付け」「製品の大きさ」など、車載製品には「クルマならではの要件への適合」が求められます。

当社はカーナビをはじめ、車間距離を測るミリ波レーダーや、エンジンやエアバッグなどを制御する装置などの開発を通じて、クルマに対する幅広い知見を獲得してきました。録ナビの開発にあたっては、それらを活かして、さまざまな試験・検証を繰り返し行い、ドライブレコーダーに求められる厳しい品質基準を達成しました。

他の機器に影響を及ぼさないよう、徹底したノイズ対策を実施

ドライブレコーダー用、カーナビ用のそれぞれのCPU から発生したノイズが、ETC、カーナビの地デジ再生などの機器に影響を及ぼすことがあります。録ナビにはナビの快適な操作を実現するため、処理能力の高いトリプルコアCPU が採用されている関係で、一層のノイズ対策が必要となる上、カメラで撮影した映像をドライブレコーダーに伝送する際に生じるノイズへの対処も必要でした。

そこで、各CPU のノイズ発生パターンを分析し、多方面からの対策を実施した上でシミュレーションを繰り返し、徹底したノイズ対策を実施しました。



Voice
開発者の声

大野 遼平
VICT 技術本部
第二技術部
製品企画チーム

「録ナビ」が欲しいと店頭で指名されるケースが増えているようで、お客様のニーズを捉えた商品を市場投入できた手ごたえを感じています。

今回、「安心」という新たな価値をカーナビに付けました。今後も既存の概念にとら

われることなく、異なる分野の製品も連携・融合させることも視野に入れ、新たな価値を作っていくことに挑戦していきたいと思っています。お客様視点を突き詰めた製品を開発していきたいですね。

使いやすく「快適」。インターフェースに工夫

少ない操作で直感的、快適に操作できるよう工夫

専門家と一般ユーザーを対象に行った、イクリップス製品のユーザビリティ評価では、「多機能化に伴ってメニューが複雑化し、直感的な操作がしづらく、目的の操作に簡単にたどりつけない」という結果が得られました。そこで、「できる限り少ない操作回数で、操作したい画面へ直感的にたどりつけること」が重要と考え、工夫を凝らしました。

たとえば、オーディオ系ソースとカーナビの2画面表示では、画面が変わってもオーディオ系操作ボタンが同じ場所にある共通レイアウトとし、操作の迷いを軽減。カーナビ・オーディオの画面にはアニメーションを効果的に使うことで、画面の切り替わりが断続的にならないよう配慮しました。



カーナビとオーディオの融合

この画面でカーナビとオーディオの両方の情報がパッと見てわかる



機能ボタン

主要操作ができる
(ナビ画面からは目的地検索、施設表示、ルート変更など)



Voice
開発者の声

久保 竜樹
SS技術本部
第三ソフト技術部
UIデザインチーム

デザイン開発にあたり、徹底的にユーザビリティ評価を実施し、細部に至るまで何度も議論と検討を重ねました。これをもとに表示させる情報量や操作方法をデザインし、「迷わない操作」を具現化することに成功しました。オーディオとカーナビの操作を

画面遷移せず、同一画面でできる点も高評価をいただいています。

また、アメリカと日本の共同でデザイン開発を行い、ユニバーサルデザインを取り入れることができた点も、誰もが使いやすいデザインにつながっていると思います。

「つながる機能」の充実

つながるサービスFuture Link*でネットとの連携も簡単

Wi-Fiを活用して自動で地図更新を行ったり、目的地周辺駐車場の満空情報を表示したり、つながるサービスFuture Link*によって、利便性の高い機能を手軽に利用することができます。

* Future Link®：「ヒト」「クルマ」「社会」のデータをつなぎ合わせて、新たなモビリティライフを提供する車載情報・サービスのコンセプト

おかげさまでAVNは20周年
20th
ANNIVERSARY

20周年を迎えたAVN

—「安全と快適に合わせたカタチ」を追求しつづけた20年—

1997年7月、イクリップブランドより、「Audio」「Visual」「Navigation」を一体化した“AVN”を発売し、2017年に20周年を迎えました。AVNはカーナビのスタンダードなカタチのひとつにまで成長を遂げ、その思想と挑戦は今もなお続いています。

■AVNの開発思想

AVNが登場する前のカーナビは、モニターと本体が分離しており、モニターはダッシュボード上に、本体はグローブボックス下あるいはシート下に設置するタイプが主流でした。

このようなシステムでは、エアバッグとの干渉、モニターによる視界の妨げという問題が生じる可能性があります。これらをクリアするとともに、車内の限られた空間でも乗る人が心地よく感じる製品を、「安全であることが快適をつくる」という思想のもと開発。AVNが誕生しました。

以来、ナビとしての使いやすさはもちろん、外部の情報をクルマに取り込んだ「つながる機能」やAVNとドライブレコーダーを融合させた「録ナビ」も誕生。ドライブをもっと楽しくアクティブに、安心を支援するための機能・サービスをいち早く取り入れながら進化を続けてきました。



約2年の開発期間をかけ誕生した、初代AVN

■挑戦の歴史



AVNの開発思想はそのままに、今後もイクリップはドライバーがワクワクするようなプラスアルファの価値を常に提供できるよう、成長していきます。

※録ナビおよびFuture Linkは、富士通テン株式会社の登録商標です。

●お客様データの保護 ●お客様満足度の向上



お客様に役立つことを第一に考えます

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。

また、お客様の個人情報を正当な方法により収集し、利用目的を明確にした上で厳重に取り扱います。

お客様相談窓口の取り組み

市販製品に関するお客様からのお問い合わせに対して、お客様相談窓口では「一人一人のお客様に寄り添う対応」を心がけています。

- つながりやすく、質の高い対応をめざしています。
- 着信直後にお問い合わせ内容に合う番号を選択していただくことで、相談内容に適したオペレーターへおつなぎしています。
- お問い合わせの内容を分析することで、日々、改善に取り組んでいます。
- お客様の声を社内へフィードバックする活動も行っています。

WEB ECLIPSE お客様サポート

修理対応

国内では、全国93拠点の認定サービスショップ（以下SS）が製品の修理にあたり、全国7か所のフィールドサポートセンター（以下FSC）が故障診断など技術面でSSをサポートしています。海外では現地法人10拠点、FSC14拠点、SS90拠点の体制を構築し、地域に密着したサービスを提供しています。

- 「早く・安く・確実な修理」をめざしています。最小部品単位での修理を行うことで、安価な修理価格を実現しています。
- SSおよび集中修理拠点のスタッフを対象に、サービス技術力に関する認定試験を毎年実施することで、サービスレベルの維持・向上に努めています。



集中修理拠点に「高機能リワークシステム」を導入し、電子回路基板の安価な修理、廃棄量の削減を実現。

Voice
従業員の声



奥井 亜紀子
第二サービス部
福岡FSC

九州・沖縄地方のフィールドサポート活動を担う福岡FSCでは、常にお客様目線で取り組むことを心がけています。お客様の生の声を社内に展開することは、お客様

ニーズに合ったより良い製品づくりにつながり、やりがいを感じます。今後もお客様のことを第一に考え、フィールドサポート活動に取り組んでいきたいと思ひます。



お客様データの保護

当社グループは、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報を適切に取り扱うことは、企業としての社会的責務であるという認識のもと、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、個人情報保護の取り組みを実施しています。

さらに、カーナビゲーション本体内にはお客様の個人情報が含まれることから、SSにも管理責任者の設置など、個人情報保護の取り組みを義務づけています。

WEB 個人情報保護方針

品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。このような取り組みの中で、「富士通テングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全面の確保を行っています。

●設計、生産、品質保証の役割・連携責任を決め、自工程完結により品質を担保する体制を構築しています。

2016年度の取り組み

- より高いレベルのお客様満足の達成をめざして、品質マネジメントシステムを新規格の「IATF 16949」に準じたシステムへ改定しました。
- 品質に対する全従業員の意識の向上を狙いとして、特別展示会を合計4回開催。重要な品質問題、お客様からの苦言・苦情、他社比較、評価結果をパネル、ビデオで展示しました。
- 「QCサークル活動で自ら考え・行動しよう」をスローガンに、4,660人の従業員がQCサークル活動（小集団改善活動）を行いました。



品質事例展示会（2016年11月）



Voice
従業員の声

萩山 寛樹
品質保証本部
顧客品質部
解析調査チーム

(写真左から)
品質保証本部 顧客品質部
解析調査チーム
梅宮 拓人、萩山 寛樹

QCサークル（小集団改善）活動は、「人材育成・職場活性化・会社貢献」の基本理念のもと、職場の問題・課題について品質管理手法を使い、メンバーと協力して解決していく活動です。

この活動を通して、改めて品質管理の大切さと、皆で協力して取り組む意義を

実感しました。「自ら考え・行動する」を意識し、メンバーをまとめながら進めることで、自身の成長にもなったと考えています。

また、社外での発表も初めて経験し、自分達のレベルを知ることができました。この経験を今後の業務にも活かしていきます。

●製品による環境への貢献



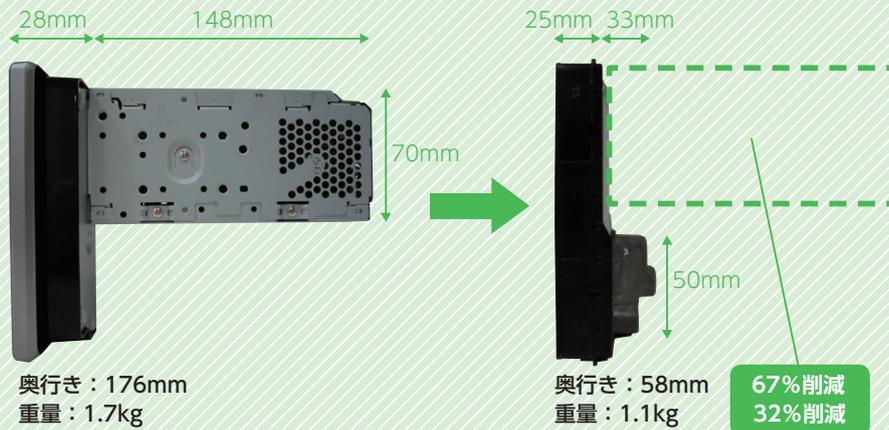
美しい地球を次の世代に引き継ぎます

地球規模での環境保全の必要性を深く認識し、
企業活動のあらゆる領域で環境負荷低減を進めます。

TOPICS

薄型ディスプレイオーディオを開発

自動車メーカー様向けディスプレイオーディオの部品構成を抜本的に見直し、小型のチップへの置き換えなどにより、基板を1枚に集約。これを縦型に配置することで、省スペース化を実現しました。また、小型・軽量化だけでなく、7型から8型へ画面の大型化を図り、IPS液晶を採用することによって、視認性も向上しました。



大型化とIPS液晶採用
により視認性も向上



Voice 従業員の声



原田 直樹 (写真右)
CI技術本部
第一技術部
第三技術チーム

木下 真一 (写真左)
CI技術本部
機構技術部
第一技術チーム

薄型ディスプレイオーディオは、「インパネ搭載自由度の向上」「車室内空間の拡大」「燃費・電費への貢献」をコンセプトに自動車メーカー様に提案し、ご採用いただきました。

製品を小型化するためには、基板実装部品の高密度化・小型チップ部品の採用が必要でした。

開発を進める上で、ディスプレイ表面温

度の上昇が最大の課題となりましたが、シミュレーションを活用し、基板上の発熱部品の配置や放熱用ヒートシンク形状を最適化することで、表面温度の低減を実現。無事、量産に結びつけることができました。

今回の経験を活かし、今後も環境に配慮した製品の開発に取り組んでいきたいと思っています。



グリーンプロダクツ

製品の環境負荷低減を図るため、法規制のある物質や材料を使わないよう設計部門にて製品環境アセスメントを実施しています。

さらに、製品自体の省電力化、小型・軽量化等の評価を実施し、一定基準をクリアした製品を「グリーン製品」と定義し、グリーン製品の中でも環境配慮のレベルが自社あるいは他社の製品と比較してトップグループレベルにあるものを「スーパーグリーン製品」とする社内基準を整備して、エコデザインを推進しています。

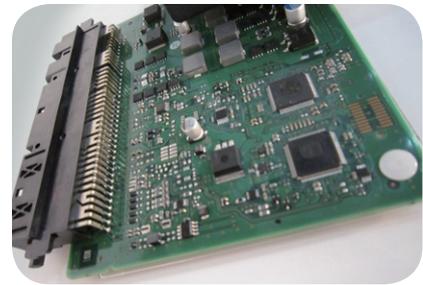
2016年度の取り組み

- 環境に配慮した製品開発をより推進するため、従来の「前モデルと比較しての省エネ、小型軽量化」に加えて、「機能そのものが環境負荷低減につながる製品（環境貢献製品）」を社内審査基準に含めました。

環境貢献製品の例：ストップ&スタート制御ECU

ドライバーの車両発進/停止操作を検出し、エンジンの停止/再始動を自動で制御することで、停車時のCO₂排出を抑えます。

CO₂低減効果：1台あたり約110kg/年



ストップ&スタート制御ECU

マネジメントシステム

TOPICS

ISO14001:2015のグローバル統合認証を業界最速で取得

2017年2月19日、本社およびグループの国内・海外など25社58拠点を対象として、環境マネジメントシステムISO14001の改定規格であるISO14001:2015においてカーエレクトロニクス業界初*1となるグローバル統合認証*2を取得しました。

これまで環境マネジメントシステム(EMS)の国際規格ISO14001において、当社では、1997年に国内全生産拠点での認証取得を完了し、その後2006年に海外全生産拠点でも認証取得を完了しており、2009年には日本でも有数の早さでグローバル統合認証を取得してきました。

富士通テングループでは、環境中長期VISION実現に向け、製品の環境負荷削減や環境貢献製品の開発とともに、より良い企業市民としてグローバルで一丸となって取り組み、人とクルマと環境のより良い関係づくりを推進していきます。



登録認証書

*1 自動車の車載・電子機器における日系企業において。当社調べ

*2 本社機能を中心にグローバルで全社のガバナンスを行い、法律順守はもとより環境負荷削減などの取り組みをグローバルで行うしくみを構築し、第三者機関が認証する形態

- デューデリジェンス（人権の尊重）
- 人材の多様性（ダイバーシティ）
- 従業員の健康推進
- ワーク・ライフ・バランス



一人一人の「働きがい」を大切にしています

従業員一人一人の人権が尊重され、それぞれが能力を発揮しながら、誇りとやりがいを持って働ける職場づくりをめざします。

また、すべての従業員に対して公正な労働条件を提供した上で、安全かつ健康的な労働環境の維持・向上に努めます。

TOPICS

選択型福利厚生制度“TenWel”を導入

富士通テンは、ライフスタイルやニーズ、価値観の多様化といった時代の潮流に対応して、新たな福利厚生制度“TenWel”を導入しました。

新制度は、従業員が自ら割り当てられたポイントを使い、「育児」「介護」「健康」「自己啓発」などの分野からメニューを自由に組み合わせて選択し、補助を受けられるものです。従来の制度に比べ、従業員が柔軟にメニューを選び、ライフプランに応じた補助を受けられるようになりました。

新制度の活用を通じて、今後も従業員のワークライフへの支援を充実させていきます。

“TenWel” ポータルサイト

人権の尊重

グローバル企業として、企業行動指針や企業行動宣言（CSR方針）に「人権の尊重」をうたい、「人種、皮膚の色、宗教、信条、性別、社会的身分、門地、障がい、性的指向などによる差別や人権侵害行為、強制労働や児童労働を行わないこと」を明記しています。

- 新入社員や階層ごとに人権に関する研修を実施するとともに、毎年12月の人権週間にはポスター掲示やリーフレットの配布などを行っています。

2016年度の取り組み

- 前年の幹部社員に続き、普段から部下指導にあたるリーダー職を対象として、パワーハラスメントへの理解を深めるために研修を開催しました。



多様性 (ダイバーシティ) の受容

従業員一人一人の多様性を受け入れ、活かすことは、「個人の成長」につながるとともに「企業の競争力強化・成長」をもたらすという考えのもと、ダイバーシティ推進室が中心となって、多様性を尊重する「企業風土の醸成」と「ワークライフバランスの推進」「個人の自立・活躍の支援」に取り組んでいます。

●新入社員や階層ごとに、ダイバーシティの必要性や重要性について理解を深める研修を実施しています。

2016年度の取り組み

●環境変化に柔軟に対応する上でのダイバーシティ推進の重要性、また、その第一歩として、当社の女性活用への取り組みについて、社長よりメッセージを発信しました。

ワークライフバランスの推進

従業員それぞれがライフスタイルやライフステージに応じた多様な働き方を実現し、家庭と仕事を両立することができるよう、さまざまな施策を展開しています。具体的には、育児・介護休職制度をはじめ、各種制度を整備・充実させるとともに、これらの制度の利用を促進するための情報発信や意識啓蒙などを行っています。

このような継続的な取り組みの結果として、2015年5月、当社は兵庫労働局より、「次世代育成支援対策推進法」に基づく特例認定（プラチナくるみん認定）を受けられました。

- 育児休職者が復職後、円滑に仕事に取り組めるよう、面談や休職中の社員を対象に、座談会や通信教育の案内など、両立支援・キャリア支援を行っています。
- メリハリのある働き方実現に向け、定時退社日の設定や年次休暇の取得促進に取り組んでいます。
- 従業員の子どもの親の職場を見学する「子ども参観日」を毎年開催しています。



特例認定マーク
(愛称：プラチナくるみん)



Voice
従業員の声

中川 剛成
生産本部 生産技術部
生技開発グループ
組立検査開発チーム

子ども参観日に参加しました。当日の趣向を凝らした内容には驚きましたし、子ども達もとても楽しそうに参加していました。子ども達に会社・仕事のことを知ってもら

う良い機会だと思い参加しましたが、参加後、時々「今どんな機械を設計しているの?」と質問されるようになり、仕事への理解が深まったと感じています。

2016年度の取り組み

●計画的な業務遂行を推進し、働き方を見直すきっかけとするため、すべての従業員が3日間の計画休暇を取得する取り組みを実施しました。



女性の活躍推進

個人の自立・活躍を支援する施策の一環として、女性の働きやすい職場づくりに努め、女性の採用継続、職域の拡大、仕事・育児の両立を支援する制度の整備・拡充と、制度を利用する風土の醸成などに取り組んでいます。

- より責任ある職位をめざす女性社員が増えるよう、リーダーシップ発揮のための意識改革と社内ネットワークづくりを支援する研修を実施しています。



最高ランクの「3段階目」を取得

2016年度の取り組み

- 採用や継続就業、多様なキャリアコース等が評価され、2016年7月に厚生労働大臣より「えるぼし」企業（3段階目）として認定を受けました。
- 若手女性社員を対象に先輩社員との座談会を開催し、先輩・同世代の社員との交流を深め、仕事と家庭の両立への不安解消と将来のキャリアを考える機会を提供しています。

Voice

従業員の声



美濃出 あづさ
VICT 技術本部
コネクティッドサービス技術部
OEM テレマチーム

若手社員として、先輩社員との座談会に参加し、先輩社員のキャリアへの考え方や、仕事で意識しているお話を聞くことができました。想像していたのとは異なり、先輩社員の自然体で仕事に取り組む姿勢が

わかり、キャリアに対して前向きに考えてみたいと思うことができました。

同世代の女性社員との交流も図れ、とても貴重な機会となりました。

心と体の健康支援

「従業員の健康確保は経営の基盤である」という認識のもと、従業員それぞれの健康意識を高め、心身両面にわたる自主的な健康づくりを支援しています。2014年度下期から、支援の施策を「健診・治療」から「心身の疾病予防活動」へ軸足を移してきました。

- 定期健康診断、年齢・職場環境に応じた目的別健康診断やメンタルヘルスのケアなどを行っています。

2016年度の取り組み

- 健康診断の結果、20歳から40歳にかけて肥満度が上昇する傾向にあることがわかったため、健康啓発セミナーの対象を30歳までの若年層（新入社員、27歳、30歳）に見直し、食事・運動・ストレスへのセルフケアなどを指導しました。
- 受動喫煙防止の観点から、喫煙所の集約、設置場所の屋外移設、禁煙イベント・セミナーなどの啓発活動を実施しました。



禁煙イベントでは「肺年齢測定」を実施

●公平・公正な取引



お取引先との公正な関係を維持します

お取引先に対してオープンで公平な取引機会を提供するとともに、法令および契約を順守し、公正な関係を維持するとともに、長期的な視野のもと、相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。

お取引先とのパートナーシップ

富士通テングループは、企業行動宣言（CSR方針）に「サプライヤーなどの取引先の尊重」「長期的な視野に立った相互信頼に基づく共存共栄の実現」「オープンで公平な取引機会の提供」「法令・契約を順守し公正な関係を維持すること」を明記しています。

これを受けて、「オープンで公平・公正な取引」「サプライヤーとの共存共栄」「CSRの推進」を調達の基本方針として、調達方針および重点取り組み事項、またお取引先へのお願い事項を、仕入先総会などを通じて、お取引先に周知をお願いしています。

また、仕入先総会では、優れた実績を修めたお取引先に感謝状を贈呈しています。

TOPICS

天栄会が郷原信郎氏による講演会を開催

2016年11月、お取引先95社と富士通テから成る協会「天栄会」の定期交流会において、郷原総合コンプライアンス法律事務所の代表弁護士・郷原信郎氏による講演会を開催しました。「経済社会の環境変化とコンプライアンス」をテーマとしたお話に、約250名の参加者が熱心に耳を傾けました。



講演会の様子

Voice

お取引先の声



白井 武史さん
株式会社 弘輝
執行役員
技術本部 技術部長

当社は電子プリント基板の実装に使用する、はんだ材のメーカーです。「2017年富士通テ仕入先総会」において、富士通テと共同開発した「ローコストはんだペースト」が、「技術開発優秀賞」を受賞しました。この製品は、プリント基板の実装で求

められる接合信頼性を低下させることなくローコスト化を実現し、実装際の窒素ガス使用量の低減にも貢献するものです。

これからも、社会・環境に貢献できるようなものづくりを行っていききたいと考えています。

「誠」を大切にして、社会的責任を果たします

トップのリーダーシップのもと、社会的責任を果たすしくみを整えるとともに、国際社会・地域社会から信頼される企業にふさわしい組織文化を育みます。

コンプライアンス

当社グループは、事業活動に関わる法規制などを明確化するとともに、社内ルール、教育プログラム、監視体制を整備し、グループ全体でコンプライアンスを推進しています。

2016年度の取り組み

- カルテル、輸出管理、情報セキュリティの3つの重点分野について、規程整備、教育、モニタリング体制の整備などを行いました。
- 設計・技術認証の法令上・契約上の適正性担保を目的として、技術監査室を設置しました。



Voice
担当者の声

井上 守旭
法務コンプライアンス室

お客様や社会からの期待・信頼に応え、従業員一人一人が、当社の市場が存在するさまざまな国や地域の法律・慣習に照らして誠実で公正な事業活動を行うことができるよう、社内教育やコンプライアンス案件の相談対応などの施策に取り組んで

います。

教育では、具体的なケースの紹介や、法律の背景にある考え方のわかりやすい説明などによって、従業員の皆さんがコンプライアンスを現実のビジネス場面で実践できるようなサポートを心がけています。

情報セキュリティ

ICT環境の急激な進展に伴い、情報漏えいなどのリスクが高まっていることから、各種規程の整備や監査の実施、全従業員を対象としたeラーニングによる教育など、情報セキュリティの強化に努めています。

- ISMS国際規格 (ISO/IEC27001など)*をベースにした関連規程を整備し、情報管理マネジメントシステムを構築・運用。全社で自己点検・監査を実施しています。
- 全パソコンにウイルス対策ソフト、ネットワーク接続パソコンにセキュリティ状況をチェックする仕組みを導入し、情報漏えいを防止しています。
- 月1回「セキュリティDay」を設け、さまざまな情報を発信することにより、情報セキュリティに関する意識の啓蒙に努めています。

* ISMS (Information Security Management System : 情報セキュリティマネジメントシステム)に関する国際規格

より豊かな社会・地域づくりに向けて

「私たちも社会の一員である」という自覚のもと、企業活動を通じて、より豊かな社会・地域づくりに貢献します。

TOPICS

『BLUE GIANT』とコラボし、神戸ジャズ探訪マップを配布

「当社が本社を置く神戸のジャズ文化を広く知ってもらいたい」との想いから、神戸のジャズやビッグバンドの情報を発信するサイト「KOBEjazz.jp」を、2006年から運営しています。地元神戸のPRに貢献するため、神戸のジャズライブハウスを紹介するコンテンツを利用し、神戸ジャズ探訪マップを作成。配布にあたっては神戸市や神戸市民文化振興財団にご協力いただき、神戸市内各所で配布しています。

2016年度にサイト開設10周年を迎えたのを契機として、神戸ジャズ探訪マップを改訂し、青年誌コミックで人気を博す『BLUE GIANT』のキャラクターを紙面に起用しました。従来よりも若い世代を含む方にも好評を得ることができ、より幅広い層の方々へ、ジャズの街・神戸をPRすることができました。



神戸ジャズ探訪マップ

TOPICS

女子バレーボール部が兵庫県より「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を受賞

当社女子バレーボール部が、ユニバーサル社会実現に向けた取り組みを行っている県内の企業・団体・個人に対し、兵庫県から贈られる「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」を初受賞しました。

これまで当社女子バレーボール部が、障害の有無に関わらず、子どもから大人までさまざまな方を対象に、バレーボール教室を全国各地で開催してきたことが評価されました。



Voice

女子バレーボール部員の声



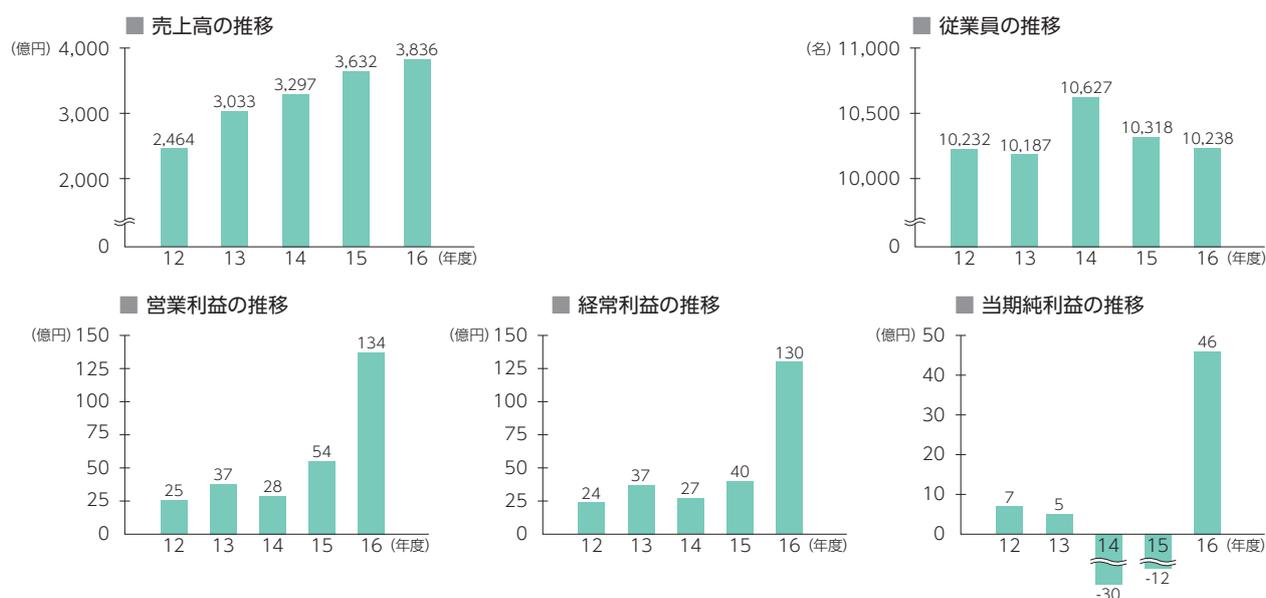
狩野 綾子
富士通テン
レッドフェニックス
マネージャー

私たちは、バレーボールを通じて、障がいのある、年齢や種別を越えた交流の場を大切にしています。バレーボールの楽しさやチームスポーツの楽しさを少しでも多くの方に感じてほしいと日々活動して

きたことが、このような素晴らしい賞として評価され、とても嬉しいです。より一層、社会貢献活動にも力を注いでいこうと改めて感じました。

財務報告(連結)

※記載金額は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。



会社概要

社名 富士通テン株式会社

所在地 本社
〒652-8510 神戸市兵庫区御所通1-2-28
TEL 078-671-5081

代表者 代表取締役会長 重松 崇
代表取締役社長 山中 明

設立 1972年10月25日

資本金 53億円 (2017年3月31日現在)

株主 富士通株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社デンソー

主な事業

■V-ICT事業

クラウド型ドライブレコーダー、緊急通報システム、マルチアングルビジョン、ミリ波レーダーなど

■CI事業

ディスプレイオーディオ、カーナビゲーション、CDチューナーなど

■AE事業

エンジン制御ECU、エアバッグECU、ハイブリッド車用ECU、電動パワーステアリングECUなど

事業所一覧 販売 / 生産 / 研究・開発 / 物流・その他

WEB 事業所一覧

*印の拠点は本報告書の報告範囲に含まれません。

■国内拠点

富士通テン株式会社
富士通テンマニュファクチャリング株式会社
富士通テンテクノセプタ株式会社

富士通テン販売株式会社
富士通テリサーチ株式会社
富士通テンスタッフ株式会社

富士通テンテクノロジ株式会社
富士通テンサービス株式会社

■海外拠点

アジア/オセアニア
オーストラリア FUJITSU TEN (AUSTRALIA) PTY. LTD. (FTAL)
フィリピン FUJITSU TEN CORPORATION OF THE PHILIPPINES (FTCP)
FUJITSU TEN SOLUTIONS PHILIPPINES, INC. (FTSP)
タイ FUJITSU TEN (THAILAND) COMPANY LIMITED (FTTL)
シンガポール FUJITSU TEN (SINGAPORE) PTE. LTD. (FTSL)
インド FUJITSU TEN MINDA INDIA PVT. LTD. (FTMI)
MINDA F-TEN PVT. LTD. (MFTL)*
インドネシア PT. FUJITSU TEN MANUFACTURING INDONESIA (FTMID)
PT. FUJITSU TEN AVE INDONESIA (FTAI)*
韓国 FUJITSU TEN KOREA LIMITED (FTKL)
中国 富士通天(中国)投資有限公司 (FTC)
天津富士通天電子有限公司
富士通天電子(無錫)有限公司 (FTEW)
富士通天(天津)精密電子有限公司*
富士通天国際貿易(天津)有限公司 (FTTT)
富士通天研究開発(天津)有限公司 (FTRT)

ヨーロッパ
スペイン FUJITSU TEN ESPAÑA, S. A. (FTESA)
ドイツ FUJITSU TEN (EUROPE) GmbH (FTEG)
米州
アメリカ FUJITSU TEN CORP. OF AMERICA (FTCA)
TEN TECHNOSEPTA USA, INC. (TTUI)*
カナダ FUJITSU TEN CANADA INC. (FTCI)
メキシコ FUJITSU TEN de MEXICO, S.A. de C.V. (FTdM)
ブラジル FUJITSU TEN DO BRASIL LTDA. (FTBL)

CSR 報告書2017を読んで



阪 智香 (さかちか)

関西学院大学学長補佐・商学部教授・商学博士
現在、日本学術会議連携会員、日本社会関連会計
学会理事、日本経営分析学会理事等。著書に『環
境会計論』(東京経済情報出版)等。日本会計研究
学会学会賞等受賞。

全 体

今年の報告書では、昨年実施されたCSRのマテリアリティ(重点課題)の評価・マッピングによって特定された5つの重点課題分野別に取り組みが報告されています。この新しい試みは、持続可能な開発目標(SDGs)などをふまえ、グローバルな視点からステークホルダーの要求に真摯に応えようとするものとして評価できます。特集では、事業を通じて社会的課題を解決する製品・サービスが紹介され、様々な運転支援を通して、富士通テンの安心・安全や交通事故低減への貢献を知ることができます。CSR報告書詳細版では、昨年度に引き続き、各頁の左側の解説やリンクから、より詳しい説明や参考資料を読むことができ、報告書の読みやすさと網羅性の両方が高められています。

重点課題分野別の取り組み

「消費者課題」では、2016年度は新たに、自動車産業の新しい品質マネジメントシステム規格IATF16949に準じたシステムの改定、品質向上への意識啓発のための特別展示会、対象従業員4,660人全員が参加したQCサークル活動が実施されるなど、堅実で着実な活動の広がりを読み取ることができます。

「環境」では、環境長期VISION2050と環境中期VISION2022に沿って策定された第8期環境取り組みプランについて、

2016年度の目標・実績と原因分析が示されています。新たな取り組みでは、ISO14001:2015のグローバル統合認証を業界最速で取得したこと、大幅な省資源・省スペースを実現した製品開発、2019年のRoHS指令を先取りしたフタル酸エステル全廃などがあげられています。環境貢献製品(機能そのものが環境負荷低減につながる製品)の開発に向けた取り組みもスタートしています。また、昨年公開された「環境経営比較評価」は、拠点ごとの取り組みレベルを定量的に評価できる優れたしくみです。環境監査や環境リスク対応におけるネガティブ情報や詳細なデータなども開示され、真摯な情報開示姿勢が見えます。

「人権・労働慣行」では、ワーク・ライフ・バランス支援の一貫として新たに導入された選択型福利厚生制度TenWelや、多様性(ダイバーシティ)の一層の重視などについて述べられています。働き方を含むダイバーシティから得られる様々な視点は、次の成長のための種となることが期待されます。

「公正な事業慣行」は、日本企業の開示レベルが未だ低い項目ですが、企業にとってもサステナビリティを実現する上で重要な要素となります。この問題を重点課題に含めた富士通テンの高い意識が、今後の一層の取り組みの進展につながることを期待します。

今後に向けて

重点課題ごとのCSRの取り組みが整理され明確にされたことで、今後、CSRを富士通テンのビジネスモデルと統合させ、長期の価値創造能力を高めるための道筋を見通しやすくなったと思います。電気自動車や自動運転といったビジネス環境の変化は、かつての自動車のイメージや社会での役割を一変させるでしょう。CSRを基礎として、富士通テンの技術・サービス力を活かし、「よりよい社会に貢献する企業」であり続けてほしいと願っています。

ご意見をいただいて



富士通テン株式会社
執行役員常務

森下 拓

阪先生には、昨年に引き続き忌憚のないご意見を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

私たちは昨年、当社が今後重点的に取り組むべきCSR課題を特定しました。これを踏まえて今年の報告書は、重点課題分野ごとの構成に変更するとともに、事業活動を通じた社会への貢献事例として、当社の事業領域の「安心・安全」「快適・利便」に関わる製品による貢献をクローズアップして掲載しています。

阪先生には、報告書の構成変更や特集記事だけでなく、各重点分野の活動の中身についても評価をいただき、光栄に思います。

今後は、「コーポレートCSR会議」等での議論を通じて、CSR方針・社内体制の見直し・整備を進めるとともに、重点分野ごとの具体的な取り組み項目や目標、活動のマイルストーンを明確にしていきたいと思います。

私たちは、自動車業界の一端を担う企業として、環境変化や社会の期待を敏感に捉え、事業活動を通じてモビリティ社会における社会的課題の解決に貢献したいと考えています。

これら事業活動と当社CSRとの関連性を明確に打ち出し、「誠」を中心とした経営理念の実践を通じて社会に貢献し、信頼される企業をめざしてまいります。

